

Japanese Welfare Society in Australia



Hope Connection Newsletter No.47

ホープコネクションニュースレター第47号 発行日2008年9月1日 発行者 Hope Connection Inc.

* * Hope Connection Inc. はビクトリア州政府に登録された非営利非宗教の社会福祉団体です * *

住所/郵便宛先 c/o Migrant Resource Centre, 40 Grattan St. Prahran VIC 3181 電話(電話相談兼用) 0408-574-824

ホームページ: <http://members.optushome.com.au/hopec> e-mail: hopec@optushome.com.au

ホープコネクションからのご挨拶

春の息吹が嬉しい季節になってきました。住宅地を歩くと桃の花、もくれんの花の香りに吸い込まれ「春のうらのの...」とついハミングしたくなってきます。冬場硬く凝り固まっていた身体をほぐして運動不足を解消したいと思います。

3月より Prahran にある Grattan Garden Community Centre で毎月第2木曜日にシニアの方、気軽に集まりましょうと呼びかけて始まったお茶会も回を重ねる毎に参加者が増えています。ボランティアをしたいと若い人たちも訪ねてきてくれ、和気藹々とした和やかな雰囲気です。シニアの方も気分転換になると喜んでおられます。誰もが年取り、やがて身体が自由が利かなくなることは避けられませんが、そうなるとうちでも家に閉じこもりがちになったり、社会との接触も薄れがちです。私たちはそういう方にも何かサービスが提供できないか模索しています。最近、この木曜日に参集してくる方たちとイタリア系移民にサービスをやっている COASIT というセンターを研修訪問してきました。オーストラリアに来て50年以上経っても母国語のイタリア語で気軽に話し、共にゲームなどを楽しむ年配の方たちの姿を見て、日本人はどういうものを求めているのかなと

ふと考えました。

そもそもホープコネクションがこのような高齢者ケアに具体的な行動を起こしたきっかけは、ニュースレター45号でご紹介した故人江鈴子さんが私たちに託した「日本人のためのケアをぜひ実現して」という強い願いからでした。こうしたご縁もあり入江さんの娘さん、二瓶まゆみさんからホープの活動に協力したいと、ご自身が事業をされている「まゆみインターナショナル」主催の「日本人女性作家によるチャリティー文化展覧会」で、ワークショップなども併設し、今年は収益の一部をホープへ寄付したいとおっしゃっていただきました。毎年このような催し物を行う際に、社会に還元したいと、これまでも赤十字やホスピスに寄付をされています。この度ホープコネクションを選んでいただけたことを大変光栄に思います。この展覧会「精鋭日本女流作家展～“華”のアートフェスタ～」併設のワークショップ、コンサートの詳細は以下の案内をご覧ください。ちょうど春たけなわの時期です。ご家族、お友達とは是非お出かけになってみてください。

日系コミュニティー団体紹介

Thornbury Women's Neighbourhood House(TWNH)日本人女性の会 荒木美琴

月に一度、週末の午後、TWNH で一品持ち寄りでお茶を飲みながら日本語のおしゃべりに花が咲きます。TWNH は成人教育や、コミュニティー・ディベロップメント、リクレーションやチャイルドケアなどを地域の女性に提供することによって、女性の可能性の追求をサポートする場です。

日本人女性の会は今年の4月に TWNH の Trish さんがそこでヨガや陶芸、エイジケアなどのコースに参加している日本人女性に声をかけて始まりました。地域にそんなに多くの日本人女性がいるとは驚きでした。Trish さんの、日本女性を結びつけようというアイデアがなければ皆会うこともなかったかもしれません。一回目は Trish さんの家で、その後は TWNH で、この間は近所のカフェで集まりました。現在、駐在員や留学生の奥さん、国際結婚して小さい子どもがいる人、永住者で独身、国際結婚して子どもがまだいない人、永住者で子どもは独立した人、シングルマザー、二世でこちらで生まれ

育った人など立場はそれぞれですが、20人近くがメンバーリストに登録しています。

月一回の集まり以外でも、Darebin City のボランティアのイベントや、ビクトリアの女性参政権100周年のイベントに招待されたりもしました。また会員同士でも、植林や展覧会など誘い合ったりして友情を深める他、情報交換、帰国中の郵便物の管理を引き受けたり、会員同士の助け合いなどもぼちぼち始まっています。TWNH は、City of Darabin に位置していますが、メルボルンの北部に住んでいる日本女性であれば誰でも参加できます。

最後に Trish さんからのメッセージをご紹介します。

「日本人女性グループはフェミニストの色である、紫、白、緑のあやめの花をイメージさせます。そこに金色の光が降り注ぎ、それは一人一人の女性の強さを表しています。

過去数ヶ月間、日本人女性のグループは、冬の間、地下で栄養を吸

収しながら(毎月の会合や、電話やメールでの交流を深めることによって)根を張ってきました。(まだ具体的に何も始まっていませんが)春雨が降り暖かくなるにつれてその根はもっと養分を吸収し、大地(地域社会)に太い根を張り、自分の栄養を作り始め(グループは独立して)ついには力強く緑の芽を息吹かせるでしょう。」

グループ独自の活動が始まるのも間もないでしょう。Trishさんが植えたあやめの球根の花を咲かせるのが楽しみです。

TWNH 日本人女性の会についてのお問い合わせは、荒木美琴 0421 654 934, or mikoto1@ihug.com.au : 中川加寿子 0415 676 508 or kazuko_nakagawa@yahoo.com

イギリス もうひとつの窓：自殺防止ヘルプラインから (その2) 会員 Z

前号では、16年に渡り生活したイギリスで経験したボランティア活動、24時間365日体制の自殺(防止)ヘルプラインについて、その一部をご紹介しました。第2回の本号では、ヘルプラインが具体的にどのように運営され、どんな相談を受けているのかまとめてみたいと思います。

危機管理と地域の連携

この組織の危機管理は徹底していたと思います。組織自体の、また、ボランティア自身の安全を確保するための工夫がいろいろとどこにありました。イギリスのおばあちゃんたちが事ある度に私によく言っていた金言、Trust no one を実践していたといひかもしれません。

ボランティア自身の安全性の確保は、たとえば、ファーストネームらしき名前はついていますが、それが本名かどうかは、幹部しか知りえません。また、何度か同じシフトに入って親しくなれば別ですが、ボランティア同士どこに住んでいるかも基本的に、明かしてはなりません。町であった際は、やむを得ないとき以外はあいさつはしない、立ち話をするのもつてのほかです。これは、この場面を誰かが見ている、「あの二人はどこでの知り合いなのか?」と要らぬ憶測を呼ぶのを避けるためです。また、シフトの時間帯は、自分の都合に合わせて選ぶことができますが、続けて同じ時間のシフトに同じ人と入らないことも基本的条件の一つでした。これは、電話相談者との話は、一回きりで同じ人が続けて同じ相談者を担当することがないようにするためです。私たちはボランティアの立場で話を聞くわけですから、自ずといろいろな方面に限界があります。一相談者一回限り、というのは、結局は、私たちも相談者も守ることになります。もちろん、偶然、同じ人と話す、ということはありませんが、この場合は、当然、次のシフトはいつか、ということを書いてはなりません。

ボランティアに精神的負担がかからないように、シフトの終わりには必ず、Debriefingの時間が設けてありました。これは、施設外で待機する複数の当番先輩に電話をかけ、自分の受けた電話の内容やその電話に対する自分の感じなどを報告するものです。先輩方が電話を受けたボランティアをサポートしてくれているのだなと感じる時間です。

電話相談の場合、相手が真実を告げているかどうかわかりません。中には、現実にはまずありえない話、ジョッキングな話をして、ヘルプラインスタッフの対応を楽しむ、という輩もいます。全国の電話にかけまくる人もいれば、その地域のみという人もいます。そのような、いわゆる、いたずら電話常習犯の情報は、ボランティア全員が共有できるように、最近のものは張り出してあり、最近のことではないけれど、時々出現するケースについてはファイルにしていますので、それを見れば「またこいつか」ということがわかりま

す。

相談者が支部を訪ねてきて対人面接が必要な場合は、応接室へ降りていきますが、これは、日中に限られます。降りていく人は、たいていシフトの中でもっとも経験年数が長い人でした。降りる前に、まず、鏡で訪問者を確認する、ナイフを隠し持っているかもしれない等嫌な感じがしたら出て行かない、もし自分が対応する場合は、同じシフトの人に告げる、緊急時コールを首から下げていく、必ずドア側に座る、同じシフトの人は一時間ぐらい経ったところで、だれそれ(実際、いてもいなくても)が上で呼んでいるといひて呼びにいく、など、細かい手順が決められていました。応接室にも、それとなく数箇所非常ボタンが設置してありました。

地域と連携するため、警察や消防と情報のある程度、情報を共有してもしました。たとえば、「自殺しようとか(たとえば、服毒)をしたのだが、気が変わったから救急車を呼んでほしい」とか、「今現在、だれだれ(たとえば、お父さんとか)が自殺するところに立ち会っている、止めたいから、警察をよこしてくれ」というような、趣旨の電話の場合、まず、住所を聞くよう、指導されていました。これは、実際、警察や消防に連絡するため、というよりは、実際にありえない住所、あるいは、何度もしてくるでたらめ電話に使われる住所かどうかをこちらでも調べ、警察と消防にも調べてもらうためです。

また、ソーシャルワーカーやサイコロジストたちも「いざ、というときはここに電話しなさい」と私たちの電話番号を渡しており、この団体はかなりの部分、公的サービスの行き届かない部分を補っていた場所でもありました。私たちのチャリティーだけでなく、ほかの分野、たとえば、ドメスティックバイオレンスやホームレスなど、広い範囲で、イギリスのチャリティー団体は、この公的機関のサービス補強の役割を担っていると思います。

ボランティアをする人々、価値

この団体でボランティアをしていた人々は実にさまざまな人たちでしたが、私が住んでいた地域全体を大雑把に代表していた人たちだともいえます。若いお母さんあり、ティーンエイジャーの父あり、空軍を退役したおじいちゃんあり、先生だったおばあちゃんあり、と本当にさまざまでした。年齢構成は、リタイアした人たちが比較的多かったように思います。男女比はだいたい同じで、日中、生活の糧を得るための仕事のある人は、仕事が終わってから、あるいは、仕事のない日にやってきていました。私が「よく勤まるなあ」といひつも感心していた女性がいました。彼女は、夜勤専門の看護師で、自分が当番のときは夜勤があけてから電話を取りにやってきて、それが終わると家に帰って一眠り、そしてまた仕事に行くといひをしていました。また、ある人は、自分の肺がんが末期になりつつあるものの、今までずっと活動してきたものだしまだ動けるから、

と出てきていた方もいました。

この人たちに共通するのは、自分たちの活動が社会の一端を支えているのだ、とか、自分がしなければだれがする、というような、大仰なものではなく、あるきっかけがあってそれを少しでもいい方向へ変えたい、だから自分でできる範囲のことを自分の責任でしよう、この「仕事」が好きだから、という態度です。また、ホリデーに行く人がいればほかの人がシフトを補う、急に都合が悪くなったからカジュアルに頼める人がいる、といった風に、無理なく活動できる雰囲気でした。

電話内容のさまざま

電話の内容も実にさまざまでした。電話をしてきてもじっと黙る人、泣きながら何かを訴える人、怒ってがんと怒鳴る人、人が聞こうが聞まいが電話を取ったとたん一方的にしゃべりまくる人、同じストーリーラインをあきもせず何年も繰り返す人、「幽霊が見える」という恐怖の最中に電話してくる人、そうかと思えば、いかがわしい内容をあからさまに「これこそを聞いてほしいのだ！」と繰り返す人、自殺したいので方法を教えてほしい、というのもありましたし、こういう人を殺したいから、という物騒なものまでありました。振り返ると、この世の中で考えられるありとあらゆる話が存在するように思います。

私は今でもふと、「あのコーラーはどうしているだろう」と思い出すのは、言葉少なく「今日が妻の命日なんです」と電話してきていた若い（と思われる）とび職のおにいちゃんです。このコールは、本当に偶然、その年と次の年の同じ日に私が受けたものでした。彼は、その日、職場で高いところに上がって空を見ると、奥さんのことを思い出してどうしようもなくなる、ということをおぼつと語ります。言葉と言葉の間には、高い場所から電話しているのだろう、強い風の音が耳元でひゅうひゅう聞こえました。騒ぐでも泣くでもなく、恨み事を言うわけでもなくあのころは楽しかったと言うでもなく、自殺しようとしているわけでもなく、ときどき携帯電話を握りなおす音がしていました。私が奥さんはどんな人だったのか、こういうことを思い出すのかをおぼつと聞いても「ただ思い出すすんで、彼女のことを。だから、この時間ちょっとつきあってもらえませんか。」と言うだけのコーラーでした。（次号に続く）

りましたし、こういう人を殺したいから、という物騒なものまでありました。振り返ると、この世の中で考えられるありとあらゆる話が存在するように思います。

精鋭日本女流作家展 ～“華”のアートフェスタ～

日本在住の日本人女性作家30人による『女性だから生み出せる作品』そこにある女性の持つ「華」を主題に掲げての展覧会。会期中には、日本から来豪するアーティストたち及び在豪日本人アーティストによるパフォーマンス・ワークショップが行われる。この展覧会に設置される募金箱やワークショップ、パフォーマンスのチケット売り上げの一部は、ホープコネクションにすべて寄付される。

- ・ 開催期間： 2008年10月10日～10月23日（オープニングレセプション10日6:00pm～）
- ・ 開催場所： The Collingwood Gallery (292 Smith St, Collingwood, 3066)
www.collingwoodgallery.com.au

オープニングでは、書家松本淳子による書のパフォーマンスが行われます。また、展覧会期間中、コンサート、ワークショップが以下の予定で開催されます。

日時	アーティスト	料金
11 October (Sat) 1:00 - 3:00pm	荒木賀野 (帽子ワークショップ)	\$30 (材料費含む)
12 October (Sun) 2:00 - 4:00pm	荒木美帆 (書ワークショップ)	\$15 (材料費含む)
13 October (Mon) 1:00 - 3:00pm	荒木美帆 (書ワークショップ)	\$15 (材料費含む)
14 October (Tues) 1:00 - 2:00pm	安部佳代子 (アクリル画デモンストレーション)	
16 October (Thurs) 3:30 - 4:30pm	Yukako Braun (池坊華道ワークショップ)	\$20 (材料費含む)
17 October (Fri) 7:00 - 8:00pm	佐藤真左美 (バレエ)	\$10
18 October (Sat) 1:00 - 3:00pm	琴蘭 (水墨画ワークショップ)	\$5 (材料費含む)
19 October (Sun) 7:00 - 8:00pm	Tokita McQueen Miyama (琴演奏)	\$ 7
20 October (Mon) 1:00 - 3:00pm	MAYUMI (粘土造形デモンストレーション)	
21 October (Tues) 7:00 - 8:00pm	只野徳子 (津軽三味線演奏)	\$5

予約、問い合わせ： たかぎ まさひこ

E-mail: masahiko@mayumiinternational.com

T: 040-3543-451 / 03-9822 2441

主催・運営

Mayumi International

(Reg. Com: Boom Promotions P/L オーストラリア法人登録番号 067318272)

本社: 58 McArther St, Malvern, 3144 VIC Australia

Tel: +61 -3 - 9822 - 2441 Fax: +61 -3 - 9824 - 4856

E-mail: masahiko@mayumiinternational.com Web: www.mayumiinternational.com

ホープコネクションからのお知らせ

ホープコネクション カルチャースクール 着物着付け教室 ーひとりで着物を着てみましょうー

これからクリスマスにかけてパーティが多くなります。着物で出かけられたらと思いはするものの、着付けが大変とためらってしまっている、そんな方々のために今回の企画です。ひとりで着物をきるためのヒントがいっぱいです。皆さんと一緒に練習しましょう。講師には、茶道裏千家の先生で着物着付け教室も開いていらっしゃる古橋和子さんをお招きしています。ご自分の着物一式と床に敷くもの（ピクニックラグなど）を持ってご参加ください。

日時： 2008年11月22日（土）午前10時30分～午後0時30分

場所： Grattan Gardens Community Centre

40 Grattan Street Prahran （Melway 58 D 5, Commercial Road から南向きに Grattan Street に入っすぐ）

費用：お一人 \$5.00（Morning tea がつきます。）

申込み・問合せ：下記へどうぞ

申込み締切：11月17日（月）

チャイルド・ケアご希望の方、駐車場が必要な方はお申し込みの際にお知らせください。（駐車スペースは限りがありますので、先着順です。）
申し込み多数の場合は、定員を限らせていただくことがありますのでご了承ください。

ホープコネクション 木曜の会

日本人向け高齢者サービス立ち上げ準備会

ホープコネクションでは、毎週木曜日の午後ブランチにあるコミュニティセンターのミーティングルームで、シニアの方々を中心に、これからの日本人向け高齢者サービスのたちあげに関心のある方々にも集まっていただけの会を催しています。

第1木曜日：ゲームの会（前は麻雀を楽しみました。百人一首をしようという声も出ています。）

第2木曜日：お茶会（ざっくばらんなおしゃべりの会です。前は、イタリア人コミュニティーに高齢者サービスを提供しているNGOのCOASITを見学に出かけました。日本人向け高齢者サービスのたちあげについて意見の交換をしたり、アイデアを出したりできたらと思っています。日本語でのおしゃべりを楽しみたいという方も歓迎です。）

第3木曜日：囲碁の会（今は初心者が多いですが、熱心な先生のおかげでみんな楽しんでいます。初心者から上級者までどなたでもどうぞ）

第4木曜日：クラフトの会（8月は袋物を作ります。次に何をするかは毎回みんなで話し合っています。手仕事の好きな方、どうぞいらしてください。）

とりあえず以上のような会ですが、シニアの方々を中心に日本人のグループと一緒に活動できるようなアイデアのある方、どうぞまず第二木曜日のお茶会にいらしてください。ブランチマーケットでの買い物ついでに、お気軽にどうぞ。シニアの方には、送迎の手配も可能です。下記までお申し出下さい。

場所： Grattan Gardens Community Centre

40 Grattan Street Prahran （Melway 58 D 5, Commercial Road から南向きに Grattan Street に入っすぐ）

日時： 毎週木曜日、午後1時から3時

申込み・問合せ：下記へどうぞ

ホープコネクションへの相談・連絡・問合せは何でも、こちらまでどうぞ

日本語電話相談：0408 -574 -824（月～金曜日、午前10時～午後3時）

E-Mail: hopec@optushome.com.au

Special Thanks to – 庭野平和財団、Good Neighbours Trust Fund、South Central Region Migrant Resource Centre、Moshi-Moshi ページ Pty Ltd.、メルボルン在住匿名希望の方、Victoria Multicultural Commission、伝言ネット、ユーカリ出版、Education Logistics、JCV、豪日協会、佐川義人、Timothy McDonald、Michal Morris、洋子マーフィー、NEC、メルボルン日本人会、大隈良譲、Sandra Roeg、SBS 日本語放送、天野行哲、加茂前千代、Christine J. Rodan、吉澤通明、山本和儀、Mark Preston、Stacey Steele、鈴木月子、田村真美、村越庸子、Jennie Rice、City of Stonnington、City of Port Phillip、Kiyomi Campbell、ZZZ、日豪プレス、Maria Palmares、嘉志摩江身子、2006日豪交流年、新保道滄、Leigh Trinh、岩本幸子、入江鈴子、斉藤喜夫、前川由紀子、与那覇麻紀、樽井千賀子、永野智子、Mayumi International（敬称略・順不同）